



JATET-S-25010

劇場等演出空間における舞台連絡設備指針

劇場・ホール・イベント空間等の劇場演出空間における舞台連絡設備は、舞台の仕込み、稽古などの準備作業や、本番の上演を円滑に進行させるために欠くことのできない設備です。

この度、JATET 音響部会では JATET-S-25010「劇場等演出空間における舞台連絡設備指針」を発行しました。この指針は、1995 年発行の JATET-S-5030「劇場・ホール連絡設備指針」を、現在の運用実態や技術、規格に合わせて全面的に改訂したものです。

舞台連絡設備の運営に係る施設管理の皆様、舞台機構、照明、音響、映像などのホール技術者の皆様に活用いただければ幸いです。

本体価格	一般：7,000 円（税抜） JATET 会員：5,000 円（税抜）
サイズ	A4 版 52 ページ
制定・発行年月日	初版 2025 年 3 月 31 日 この規格については、少なくとも 5 年を経過する日までに審議に付され、速やかに確認、改正または廃止されます。
販売方法	下記 URL よりお申し込みください https://www.jatet.or.jp/publish/

公益社団法人 劇場演出空間技術協会（JATET）

JAPAN ASSOCIATION OF THEATRE AND ENTERTAINMENT TECHNOLOGY

101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 3-8-6 第一古川ビル 3F

TEL:03-5289-8858

FAX：03-3258-2400

ホームページ：<https://www.jatet.or.jp/>

目 次

はじめに.....	1
1. 舞台連絡設備の概要.....	2
2. 舞台連絡設備の構成と運用状況.....	3
2.1. 舞台連絡設備を構成する設備・機器の概要.....	3
2.2. 舞台連絡設備の運用状況.....	4
3. 舞台連絡設備に求められる要件.....	7
4. 舞台連絡設備の機器詳細.....	9
4.1. インターカム設備.....	9
4.1.1. 有線インターカム設備.....	9
4.1.2. ワイヤレス・インターカム設備.....	13
4.1.3. インターフェース.....	15
4.1.4. 持込対応.....	15
4.2. 映像モニター設備.....	17
4.2.1. 映像モニター設備の映像例.....	17
4.2.2. 映像伝送の種類.....	18
4.2.3. 映像の遅延.....	19
4.2.4. 映像の音声重畳.....	21
4.2.5. 映像モニターの解像度・輝度.....	21
4.2.6. カメラ、映像モニターの設置位置と監視映像.....	21
4.2.7. 接地の注意事項.....	22
4.3. トークバック設備.....	23
4.3.1. トークバック設備の用途・運用.....	23
4.3.2. トークバック設備用のマイクロホン.....	23
4.3.3. トークバック設備用のスピーカー.....	24
4.3.4. トークバック設備の利用想定.....	24
4.4. 音声モニター設備.....	25
4.4.1. 音声モニターの構成機器.....	25
4.4.2. 舞台スタッフ向けの音声モニター.....	26
4.4.3. 楽屋・ホワイエ向けの音声モニター.....	27
4.4.4. 音声モニター設備の設置.....	27
4.5. サインランプ設備.....	28
4.5.1. サインランプ設備の構成と動作.....	28
4.5.2. サインランプの系統.....	29
4.6. インターホン設備.....	30
4.7. 楽屋呼出装置.....	30
4.8. 開演ブザー・チャイム装置.....	31
4.9. そのほか関連設備.....	31
5. 舞台連絡設備の維持・管理と改修計画の課題.....	34
参考資料.....	36

はじめに

劇場・ホール・イベント空間等の劇場演出空間における舞台連絡設備は、舞台の仕込み、稽古などの準備作業や、本番の上演を円滑に進行させるために欠くことのできない設備である。この設備は、オペラやミュージカル、演劇、バレエ、コンサートといったさまざまな演目において、多数の出演者や演奏者の出入り、演出家や舞台監督、美術・技術系スタッフの共同作業を、安全・確実・迅速に行うためのもので、それらに必要な指示伝達と相互確認のための通話・拡声・表示を行う設備や、音声や映像による視聴・監視設備などから構成されている。

劇場演出空間では、さまざまなセクションのスタッフが一同に集まり、出演者に寄り添いながら一つの作品の上演に向け動いているが、全てのセクションが同じ会社や組織であることは稀である。ともすればその場限りのメンバーで共同作業を重ねていくため、スムーズな相互コミュニケーションが非常に重要となる。

近年の演出効果は大規模かつ複雑化してきており、複数のセクションが連携してダイナミックな舞台転換を進めていく事例も増えている。スタッフ間の連携がとくに重要な役割を果たすようになり、舞台連絡設備に求められる技術的な水準は高まるばかりである。

その一方で、高度な機能・性能を持ちながらも、その日初めて集まったスタッフでも簡単に操作でき、相互のやりとりをストレスなく進められるインターフェースが必要とされており、相反する要求を同時に満たすことが求められている設備ともいえる。

また、既存の劇場・ホールにおいては、舞台機構や舞台照明、舞台音響といった主要設備が改修されるのに比して、舞台連絡設備は竣工当初のまま運用されている状況が散見される。上演の成否に直結する設備であり、施設の利用者が持ち込むことが難しいため、老朽化や陳腐化が進むままにしておくことは、決して好ましい状態ではない。

こうした情勢を踏まえ、劇場・ホール・イベント空間等の劇場演出空間を計画・設計・建設・運用する際には、想定される運用に必要な規模・機能を備えた舞台連絡設備の設計・施工と、その後の維持管理計画ならびに予算措置の策定が欠くことのできない要素となる。

演出空間としての利便性・可用性の向上や、さまざまな演出・技術への対応を考慮し、舞台連絡設備の計画的な改修・更新を進めていくことが、そこで上演される演目を支える礎となり、ひいては施設自体の価値や存続意義にもつながっていくことを、施設設置者と管理者の双方が認識していく必要がある。

上述のように、舞台連絡設備に求められる要件は、時代とともに変化している。本指針は、1995年に策定された「劇場・ホール舞台連絡設備指針」JATET-S-5030を基に、現状の運用実態や技術、規格に合わせ修正・追記を行い、劇場演出空間全般を対象として新たに発行したものである。本指針が舞台連絡設備に関わる全ての技術者、ホール関係者、スタッフの一助となれば幸いである。